

INTERNATIONAL EXCHANGE 国際交流

水産学部の留学プログラム

水産学部には様々な短期留学サマーコース、交換留学制度があります。これらプログラムは語学留学を目的とするものではなく、研究目的の留学プログラムです。海外での研究体験のみならず、それを足掛かりに海外の大学院に進学する学生もいます。水産学部のプログラム以外にも、自ら奨学金を得て、国際交流協定校に留学する学生もいます。また、水産学部は13か国から66人の留学生を受け入れています。交換留学で来る学生もいれば、入試を経て入学する留学生もいます。交換留学は期間が限られていますが、その後、水産科学院の大学院に進学する留学生も多くいます。

Eco-friendly Fisheries for Sustainable Fisheries Resources Management in Thailand

北海道大学—東南アジア漁業開発センター訓練部局 ～生態環境保護を意識した沿岸漁業の持続的資源管理～

次世代を担うタイ国各地の水産・海洋系大学生と北大水産生を対象とし、約10日間の短期集約された期間で実施される現地研修コースです。東南アジアにおける漁業就業者は数多く、その生産量も世界有数の規模を有していますが、環境汚染や資源減少などの問題も多く抱えています。その中でASEAN10か国の漁業開発を統括する、SEAFDEC(東南アジア漁業開発センター)の訓練部局を拠点に、海洋環境・海洋生態系・タイの漁業形態などの座学、漁具や漁網の制作実習、調査船を利用した沿岸域における資源量調査漁業と海洋観測実習、近隣漁家へのアンケート調査、問題解決のためのグループワークなどを日本とタイの学生が協力しながら実施します。訓練部局に併設された宿泊施設での共同生活や協力しながらの実習は、実習学生間の距離を一気に縮め、タイの友人と親しくなる事は請け合いです。そして決して観光旅行では味わえない物が得られます。



乗船調査を終えて、皆でガッツポーズ



函館市水産物地方卸売市場の見学

Seafood supply chains in Japan and Singapore — NUS

北海道大学—シンガポール国立大学 サマーコース ～日本とシンガポールにおける水産物供給体制の比較～

本プログラムは、北海道大学とシンガポール国立大学が持つ世界レベルの食料生産分野の研究教育力を活かした、世界に類を見ないオリジナリティの高いコースです。グローバルな視点から水産物生産と供給体制を学び、アジア地域の水産利用に関する課題発見とその解決能力を涵養することで、タスクフォースとなり得る人材養成を目指すものです。本プログラムは6週間のコースで、函館—シンガポールへ学生が相互訪問することで、両国に学生が滞在しそれぞれの文化を学び、水産物バリューチェーンの川上から川下までを現地視察等を含めて実地で学び体感します。E-learningを活用することで相互訪問する前に必要な予備知識を習得します。シンガポールでは政府直轄食糧機関(SFA・MAC)、水産物卸売市場などの見学やすり身ボール製造実習を体験し、函館では水産物卸売市場、函館朝市などの見学や水産缶詰製造を体験します。



すり身ボール製造実習体験



シンガポール水産物卸売市場の見学

留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

スタンフォード大学 博士研究員

田中 桜花

トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム第4期に採択され、修士2年次を休学し1年間米国東海岸ボルチモアに研究留学をしていました。就活を始めるときに業績が無く履歴書を埋めたいと思い留学しました。留学先では 医学研究モデル生物の魚の一種ゼブラフィッシュを用い、脳神経細胞が生殖機構に及ぼす影響を研究しました。自分の研究に客観的な意見をたくさんもらえる環境が良かったです。「その経験が、未来の自信」これはトビタテのスローガンです。ルームメイトとの大喧嘩など、心が折れることも多かったので自信がつかは人それぞれですが、留学は自分の将来の選択肢を広げることが出来ます。私は現在、米国の同研究室で博士課程を修了した後、博士研究員として研究職に就いています。海外大学院に行くなんて高校生の頃は考えられませんでした。その選択肢を知らなかったからです。これを読んでいる貴方はきっと留学が気になっているでしょう。勇気を出して留学について調べてみましょう。情報収集が大事です。日本にプラスして海外の研究室も比較対象に入れて検討すれば、幅が広がります。学部生は海外行ってみたい〜くらいの気持ちで研究留学へ挑戦して良いと思います、自分の将来の選択肢が増えます。



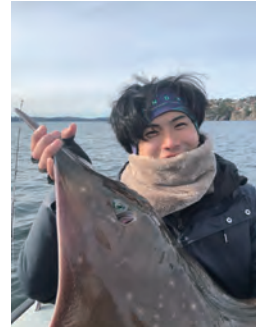
留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋生物科学科4年(寄稿時)

二通 健太

現在、北大の大学間協定を利用してノルウェーのベルゲン大学に1年間留学しています。ノルウェーに来て衝撃を受けたのは、スーパーに並ぶ魚が全く見たことのない魚だらけであったことです。ノルウェーは大西洋に面しています。そのため、太平洋では絶対に見られない魚が当たり前に見られます。シロイトダラ、クロジマナガダラ、ヨーロピアンヘイクなどが良い例です。学部卒業程度の知識を既に身に付けていたはずの私でしたが、ノルウェーに来て早々見たことのない魚を目にして、いかに自分が限られた世界しか見てこなかったのかを痛感しました。日本は太平洋に浮かぶ小さな島国です。日本にいるということは、太平洋という物理的な制限を伴います。私は太平洋を出て初めて、自分がどんな場所にいたのかを知ることが出来ました。この留学が無ければ、私は一生気付くことはなかったでしょう。大西洋はどんな場所だろう?その好奇心が私をノルウェーへと導き、世界が思っていたより大きく広いことを教えてくれました。



短期留学スペシャルプログラム

Humans and Marine Environment

(米国ワシントン大学)

2015年に開始された本プログラムでは、シアトルのメインキャンパスを訪問後、離島にあるフライデーハーバー臨海実験所で講義、実習を行います。海洋環境・生物と人間の生活との関わりに関する講義や、潮間帯の生物採取・同定、実習船を用いた洋上実習、ホエールウォッチングやホエールミュージアム訪問など、内容は多岐にわたります。ワシントン大学は1861年に設立され、米国西海岸で最も古くからある名門大学の一つです。ワシントン大学とは、水産学部が1988年に部局間交流協定を締結、2016年には大学間交流協定も締結し、水産学部生だけでなく、多くの北大生が短期・長期で学んでいます。

留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋生物資源科学専攻 資源生物学講座 修士課程2年(寄稿時)

桑原 凧沙

フライデーハーバー周辺は風光明媚で、巨大なヒトデやケルブ、多種多様な魚類、ゼニガタアザラシやトド、シャチなどの海棲哺乳類を身近に見ることができ、私は日本に帰国したくなくなるほど、この地の魅力に取り憑けられました。講義や実習では、ワシントン大学に所属する研究者の方々が、学部生である私たちのレベルに合わせて分かりやすく解説して下さるため、紹介される専門分野それぞれに興味を持ってプログラムに取り組むことができました。また、講義外にも研究者の方々にキャリア形成や研究活動についてのお話を聞く機会があり、このプログラムは私が専門分野や進路を選択する上で、大きな指針となりました。海外のフィールドで、学部問わず集まった仲間と海洋生物について学び将来について考えるという、水産学部生にとって貴重な経験をすることができました。



ワシントン大学シアトルキャンパスにて(2019年8月)

海外からの留学生

INTERNATIONAL STUDENT

DEGBESSOU Voltaire Juste

Background:

I am DEGBESSOU Voltaire Juste from the West African country of Benin. I am now a master's student at Hokkaido University's Graduate School of Fisheries Sciences, where I am enrolled in the Division of Marine Bioresource and Environmental Science and study under the International Education Office.

Purpose of coming to the Faculty of Fisheries, Hokkaido University:

During my undergraduate studies at the Benin National University of Agriculture, I learned that Japan is a leader in the development of sustainable aquaculture and fisheries. After graduating, I ran a fish farm and worked as an aquaculture technician. During that time, I met Japanese volunteers in Benin. We grew close and shared numerous stories about Japan, so in 2019, I decided to come to Japan to see if what I had been informed was true. I consequently received a Japanese Government (MEXT) scholarship to enroll at Hokkaido University and learn from the best. Hokkaido University imparts information needed to meet new challenges, tackle world problems, and prioritize the SDGs, which is why Hokkaido University is now one of the world's top ranked university's for research and education focusing on several of the SDGs. During my study, I want to learn as much as possible so that I can help Benin and other countries achieve sustainable development.

